

令和 3 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	16703000274
法人名	医療法人社団 喜生会
事業所名	グループホームぬくもり
所在地	富山県射水市朴木244番地
自己評価作成日	令和3年10月1日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページ等で閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人 富山県介護福祉士会		
所在地	939-8084 富山県富山市西中野町1丁目1-18 オフィス西中野ビル1階		
訪問調査日	令和3年11月12日	評価結果市町村受理日	令和3年12月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 法人の理念である人間が人間を人間らしく看るという当たり前のことを誠実に実行している。</li> <li>・ 医療法人が運営母体で、同敷地内クリニックと老健が併設しており体調変化等にすぐ対応できる。</li> <li>・ 経験豊富で長く勤務している職員が多い。</li> <li>・ 入居者のペースに合わせての行動や体調管理ができています。</li> </ul>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>事業所は幹線道路に近く、交通の便が良く静かで落ち着いた環境にある。綺麗に整備された庭は、共有スペースだけではなく、個々の居室の窓からも眺められ、春には枝垂桜を愛でることもできる。理念のもと、管理者をはじめ職員全員が温かい家庭的な雰囲気の中、整理整頓を心がけ居心地よい空間である。また、食事の利用者の好みを取り入れたり、庭のイチジクをデザートにしたりするなど季節感や収穫の楽しみも取り入れている。敷地内に同法人の木戸クリニックがあり、医療体制だけでなく、ケアプランなど、医療及び多職種連携での手厚いサポートがある。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 1 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り管理者と職員は、その理念を共有し毎月1日に唱えており実践につなげている。	設立時に法人の理事長が作成した理念をグループホームの目標に掲げ、毎月1日、朝のミーティング時に唱える習慣がある。また、タイムカードの前に貼ってあるため、職員は毎日目にすることができる環境である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者が地域と繋がりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として出来るように努力している。	利用者の安全を最優先に、感染防止のため現在は獅子舞見学やボランティア受け入れなど中止している。コロナが落ち着いた後、法人の指示のもと個々に検討予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の方が入居された時にも活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で実践されていないが運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナ禍であり、運営推進会議は実施していないが、書面による開催とし、会議資料は作成し残している。参加予定者に資料の配布はしていない。	参加予定者とのつながり継続や意見をサービス向上につなげるため、個人情報に差し支えない程度の情報の共有化に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	昨年度より続く新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から市町村の連携を密にして取り組む様に努めている。認定調査時には、施設の状況、取り組みを伝え助言を仰ぎ施設内で出来ることを新しく取り組んでいく。	市とはコロナ禍前から連携が取れているため、介護保険制度の疑問点など直ぐに電話で聞ける関係作りができています。また、新型コロナウイルスに関する情報、備品などは法人を経由し連携を取っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修受講後の報告会、勉強会などを経てそれを活かし入居者様一人ひとりと向き合い気持ちに寄り添った介護を心掛けている。併設施設の駐車場がすぐ前に有る為、玄関の施錠をしている。	コロナ禍であり、現在外部研修には行っていないが、過去に受講した資料を基に、管理者が朝のミーティング時に勉強会を行っている。身体拘束廃止委員会は、利用者ごとに3か月ごとのケアカンファレンスと同時に開催しており記録も残されている。	会議資料や記録の形態については、併設病院の多職種のアドバイスも受け、独自の様式で作成し整理されている。全職員がいつでも確認することができるよう今後もさらなる工夫を期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修で学んだ事を勉強会で報告し、知識向上につなげている。そして身体的・心理的虐待、負担を与えない様に職員同士で注意を払っている。入居者様の人格を尊重し、生活の質の向上を職員一同めざし努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者様の日常生活や嗜好を理解し管理者と職員で勉強会やカンファレンスを実施し入居者様が心豊かな人生を送って頂けるように援助している。ご家族がいない場合や疎遠な方は成年後見制度が活用できるよう視野に入れて支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際、個々に説明し同意を得ている。重要事項説明に変更があれば事前に説明し、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族の意見、要望があれば改善につながるよう話し合いの場を設け、職員全体で適切な運営に反映させている。	家族来所時や、着替え等持ち物に関する電話連絡時に、家族からご飯の量やお菓子について相談、要望があった。利用者の持病との兼ね合いもあり多職種で話し合い対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員からの意見、提案を聴く為、ミーティングなどを設け必要な時は個別面談の機会も設けるよう取り組んでいる。	毎朝ミーティングをしており、何でも話せる雰囲気作りを心掛けている。職員から、コロナ禍での対応がよくわからないとの意見が出た時に、母体のクリニックの担当者が、面会の方法や、動画を用いた感染対策の勉強会を行った。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自が向上心を持って働けるよう、より良い職場環境であるための空間作りの在り方を工夫しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修会の参加、職員へ適切にケアの助言や指導を行いスキルの向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修会に参加し情報交換をしたり会議等、職員の間で情報を共有したりして、サービスの向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様に状態意向を伺い信頼関係を築く様に努めている。本人状態は職員間で把握し必要なサービスを提供し、安心して暮らせるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望、思いなどを伺い信頼関係を築くようにしている。又、家族とコミュニケーションを取り合い家族が安心して暮らせるように気持ちに寄り添う関係に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当法人の管理者である医師が診察し入居が望ましいと判断された方については、必要としている支援を見極め、本人と家族の意向を尊重しながらサービス等の利用も含め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者様に対して日頃から話を傾聴するのは勿論であるが、入浴介助等で一対一になる時など話しやすい雰囲気作りに取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍においては、玄関横のガラス越しでの短い面会になるが聞こえにくい入居者様には、家族の声を代弁し本人と家族の絆を大切にしながら共に本人を支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍においては、ガラス越しの面会や本人希望時に電話の取次ぎ等で支援している。	家族と電話していただいたり、はがきを書ける利用者は家族との年賀状や絵手紙のやり取りを楽しみ、関係継続の支援をしている。コロナ禍前は利用者の行きつけの美容院へ行ったり、帰りに外食や銭湯に寄ったりすることもあった。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	コロナ禍ではあるが職員は入居者様同士の関係を把握しており、入居者様の想いに寄り添って関わりの支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現状では、退去後の接触が少なく判断が難しい。当グループホームを退去され新たに再入居される場合があり、その際に相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の思いに寄り添い安心して生活して頂けるように話の傾聴に努めている。	日々の利用者の言葉や思いをアセスメントノートに職員全員で記録している。隣の人の塗り絵を見た利用者から「これが欲しい。」とつぶやく声が聞こえたため、直ぐに家族に連絡し、持ってきてもらったケースがある。	担当者だけではなく、職員全員で利用者の思いを記録している。記録は対応した職員の言葉で書かれているが、その時の利用者の思いや状況がより伝わるように、利用者自身の言葉で記録するなど更なる工夫に期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様に生活歴について話を傾聴し、把握した情報を源に生活環境を整えている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様一人ひとりのペースに合わせて過ごせるように努めている。残存能力に着手し役割作りなど決めている。職員同士の情報を共有しプランの更新に繋げている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	三か月に一度介護計画を見直し新たな課題を把握し併設施設の医師・看護師・理学療法士等の専門職と共にカンファレンスを実施している。また家族にも意見を伺い介護計画に反映している。	3か月に1度、介護計画を見直している。担当職員は事前に利用者の変化などメモを残し、それを基に母体のクリニックと多職種でカンファレンスを実施している。	コロナ禍で対面での説明を短時間にせざるを得ない場合は事前に電話で説明をするなど、更なる工夫に期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ノートを作成し特記事項やサービス経過記録等に記録を残し重要事項問題等があれば話し合い、日々の介護計画に反映させている。一人ひとりの受診記録を取っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われず、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	持病の治療や体調不良があった場合、併設のクリニックへ職員が付き添い受診し、結果を家族に報告している。その時々ニーズに合わせて柔軟に対応できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の民生委員の方々とコミュニケーションを取り信頼関係を築けるように努める。入居後も相談させて頂き安心して生活ができるように支援したい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	体調不良時は併設クリニックを受診し状態により医師の判断によって、かかりつけ医を含め他病院を受診する。本人、家族共に納得する医療に務めている。	利用者は四週間に一回母体のクリニックを受診している。緊急時は状態に応じ、往診や受診で対応している。母体のクリニックだけでなく近隣の病院やかかりつけ医など必要に応じ受診し柔軟に対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃の会話からの情報、訴えを含め、体調不良時は担当医師、看護師に相談している。定期受診(四週間に一度)には記録した様子を伝え入居者が適切な看護が受けられる様、支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は、入居者の服薬情報、生活状況(介護時の気になる点を含め)を報告、把握し、スムーズに入退院後の生活が出来る様に情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階で本人、家族様と話し合い共有の方針を決め担当医師の判断のもと併設・施設・移転などの対応をしている。	重度化対応に関する指針・方針があり、入所時に説明している。看取りは行っていないが、母体のクリニックで個々の利用者の状態変化に多職種で柔軟に対応し、入院などの支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は入居者の急変や初期対応については緊急マニュアルに従い実践している。マニュアルは定期的に見直しを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	入居者を安全に避難できるよう全職員が地域との協力体制を築いている。	避難訓練は法人で計画している。今年度はまだ行っていないが、法人全体での実施を計画中である。災害時は法人の職員とも協力し、母体のクリニックに避難することになっている。また、備蓄は法人として保管している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者のケアを行う時は大切な人として尊厳を損なわないよう接している。	トイレの声かけの仕方や、ドアは必ず閉める、本人のいやなことはしないなどの対応について、毎朝のミーティングや日々フロア内で気づいた事を確認し、職員がお互いにフォローしあっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は入居者様を見守りながら話しやすい環境や雰囲気作りを考え自分の思いや希望を自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居様個々の生活歴を大切に、家庭的な雰囲気の中で本人がしたいと思っていることを汲み取り本人のペースでゆったり過ごせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人、又は家族の意向により併設施設の床屋を利用して頂いている。入居者様の気持ちに寄り添い季節に合った衣類を提供し管理を実施している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様も知っている地元のスーパーから食材を購入し食べたいと訴えがあった場合は出来るだけ対応している。食後の皿拭き・運びなど職員と一緒にやっている。	職員と利用者がくつろぎながら「何食べたい？」と意見を聴き献立に取り入れている。まず寿司が食べたいという思いに合わせてスーパーを変えることもある。また、手作りおやつ作りや、しめじほぐしなど利用者とともにやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの良い献立を考え入居者様に応じた形態や量を考え、楽しく食事ができるように見守り、介助に努めている。摂取量を把握し健康管理に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者様の状態に応じた介助を行っている。口腔内の状況や義歯の状況を確認し、その都度対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を職員同士で共有している。個々の排泄パターンの習慣を活かして自立にむけた支援を行っている。個々の排泄記録は朝、夕に申し送りしている。	排泄チェックシートは見やすく記録され、それを基に個々の利用者に合った声掛け、排泄環境の工夫がされている。布の安心パンツを使用した成功事例もあり、利用者の自立と職員の自信に繋がっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の状況を記録に残している。対応として水分補給、食事内容の見直し、毎日の体操など個々に応じた予防に取り組んでいる。困難な場合早めに担当医師に報告、受診し、便秘対策に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	月～木迄毎日入浴出来る様になっており、その日の体調を考慮しながら週2回入浴している。また体調不良日は下着を含む全身更衣で清潔保持に努めている。	入浴は午前中に4人のペースでゆったり行われている。美肌効果があるとのことから、庭のイチジクの葉を干して入れたり、ゆず湯にしたりと、利用者喜んでもらえるように職員も日々工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	馴染みあるものを居室に置いたり、個々に合わせベッドや枕の高さを調節したりする事で安眠効果や安心して落ち着いた居住空間になるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の体調や薬品情報を職員間で共通理解や把握しながら的確に服薬管理を行い、様子観察記録を取りながら主治医との連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々、他入居者との繋がりを大切にして役割やレク、ゲームを通じ一緒に楽しめる時間が有意義な物になるよう工夫し見守っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	併設施設での行事に参加したり、外出クラブで周辺地域へ出かけ施設の周りを散歩したりして地域との交流を図っていたが新型コロナの影響により外出は自粛している。	春は庭の枝垂桜の下で花見をしたり、秋は庭のイチジクを収穫したりしている。また、外出の代わりとしてレクリエーションの一環で釣り大会を開催した。獲物の中には魚以外のものもあり、日頃立つことのない利用者が千両箱を釣り上げた際に立ち上がったこともあるなど、事業所内で楽しめる活動をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症対応型の為、現状はお金の所有や使う事は難しいが今後は支援出来る様に努力していきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居様が電話してほしいと言われた時は職員が電話を掛ける介助を行い取り次いでいる。又、手紙、はがきのやり取りが出来る様に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フローアや居室等入居者がいる場所は常に過ごしやすい室温を保っている。また、玄関やフロアには、季節に添ったタペストリーを飾っている。中庭の朝顔や庭にあるイチジクの木と花壇は季節を感じる事が出来る様に工夫している。	天井が高く暖色の吊り型ライトが照らしている。利用者は窓から見える庭の枝垂桜やイチジク、また、遊びに来る小鳥の姿を楽しんでいる。清潔に保たれたフロアには、季節の飾りや、モダンな塗り絵が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った入居者様同士で会話出来る様に隣席にしたり、ホールにソファ、椅子を置いてプライバシーを保ちながらゆったりと過ごせる場所を提供したりして居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自分の好きなポスターや家族の写真、テレビなど使い慣れた物、お気に入りの物を置かれ安心して過ごせるその人らしい居室になるよう支援している。居室からも庭を眺める事が出来、季節を感じられゆっくり過ごせる様になっている。	居室は明るい色合いで、木製のベッドやチェストが設置され、窓から庭を眺めることができる。個々の利用者の思いや状態に合わせ、装飾のほかベッドやポータブルトイレなど職員が工夫して配置し、柔軟に対応している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は、バリアフリーで手すりを設置している。身体状態によりベッドの位置を考えて配置したり、トイレ、各居室がわかるように名前を表記したりしています。また、ホールに職員がいて安全に配慮している。		

## 2 目標達成計画

事業所名 グループホーム ぬくもり

作成日： 令和 3 年 12 月 1 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	23	利用者の記録は職員全員で思いを記録していた。記録は対応した職員の言葉で書かれていた。その時は入居者自身の思いや状況が入居者自身の言葉での記録が少なかった。	その時の入居者の思いや、状況を聞いた職員はぬくもり日誌に、利用者自身の言葉で記録をする。	担当職員だけでなく職員全員で利用者自身の言葉をぬくもり日誌の生活機能覧に記録する。 例として「入浴したが洗濯物はいつ戻るのか？」 「寒いので牛乳温めてほしい」など。	6ヶ月
2	26	ケアプラン作成後は、なるべく早くに契約者が面会時にサインを頂いていたが、コロナ禍であり十分な説明の機会と配慮ができていなかった。	コロナ禍であっても、面会時ケアプランの説明は、契約者に特変など要点を報告する。 特別な場合電話連絡で説明する。	契約者が面会時、ケアプランのサインが必要な場合、介護支援専門員及び職員全員が状況判断し特変など要点を説明する。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。